



ホームページ http://www.hokkyodai.ac.jp/edu_center_remoteplace/
メールアドレス kus-hekiken@j.hokkyodai.ac.jp
☎ 0154-44-3291 FAX 0154-44-3292

平成30年度 北海道教育大学 釧路校 へき地小規模校体験実習 アンケート集計結果

今回は、津田順二先生に平成30年度へき地校体験実習Ⅱを受講した学生のアンケート結果を紹介して頂き、その全体的な傾向について特徴を解説して頂きました。結果的には、一人一人に目が届くこと、教職員の横の連携が強く「チーム学校」になっていること（流行語で言えばOne Team）が学生の驚きとなっているようです。そしてこのことが教職意欲に繋がっているようです。



北海道教育大学釧路校
津田 順二

北海道教育大学 釧路校 地域協働型教員養成
プログラムコーディネーター 津田 順二

へき地校体験実習で参加した学生諸君の感想は充実感に満ちている。それは小規模校があるがゆえに児童・生徒との密接な距離感から一人一人の目線に立つことの意味を実感として学び取ることによる。また「チーム学校」を理屈でなく、児童生徒の指導に繋がる、学校・教員の協働組織を体感していることによる。これらが教職の意義と責任を自覚させ、今後の教師としての学びに生かそうとする教職意欲に繋がっていることがうかがえる。

1. 主免実習から更に「深い学び」になったと思われる点で、印象に残っている具体例

- 授業技術や授業形態(複式授業)子ども実態把握の仕方。子どもの疑問から経験につなげることのできる教師の協力体制。
- 特に印象に残っているのは児童理解。主免実習では指導教諭と放課後や打ち合わせでは授業のことについての振り返りがほとんどであったため、児童について深くお話しする機会は少なかった。へき地校体験実習では少ない人数であったこともあり、その日の児童の様子を振り返ったり、どのような指導をすべきかを教えていただいたりする時間があり、より児童について日常生活から知ろうとする気持ちが強くなった。
- 一人一人の学習進度、実態に応じた授業づくりの方法について学ぶことができた。自分が入った低学年ではノートの手取り方の特徴に合わせて板書の仕方を変えたり、視覚的な理解を促すような教材づくりをしていた。
- 現時点でどれくらい理解しているかを捉え段階的に単元目標を達成できるように手立てを逆算する。算数科では単元導入で図を用いて説明できる状態を目標に授業を行い、数直線、式で説明できるように手立てを講じた複式授業の構成や間接指導時の指示の重要性、子どもが主体に学びに向かうよう授業を構成することなど。
- 小学生の理解度がよく分かった。授業を何度もやっていく中で、発問や教材を易しくすることができた実感があった。また、子どもたちも楽しそうに受けてくれるようになった。
- 先生方と話すことで学級に対する思いや学級経営の仕方、学級で大切にしていることなど先生方の教育観についていろいろなことを多角的に知ることができたと思い、以前よりも深い学びになったと実感している。
- 主免実習での私の自己課題は交流方法だった。どのタイミングでどんな目的をもって交流を取り入れるのかを教師側が明確にしておく必要がある。へき地校実習で学習リーダーを中心に学習を進めている様子がとても印象的だった。それは学級経営、学習規律の基盤ができていて、目の前の子ども達の学びに向かう姿にとっても感動した。

- へき地は子どもの人数が少なかったため、主免実習よりも一人一人について実際に接したり先生のお話から子ども理解を行うことができた。問い返しするとき、子どもに5W1Hを意識して行うことが大切だと学ぶことができた。
- 5・6年生の外国語の授業で、5・6年生各一人ずつの規模のあまり大きくないクラスであったため、楽しんで学ぶことのできるようなゲームをする際に、異学年で学力差が生じても平等に楽しむためのルール工夫が施されていた。複式学級においてクラスで、同じ内容を学ぶ際の平等さを確保する重要性について理解することができた。
- 実習校はへき地校ではなかったため複式授業の行い方や工夫すべき点などが深い学びになりました。特に間接授業に入る際、子どもたちだけで学習を進められるよう課題を多く用意したり、授業(学習)の順序を示したり等、さまざまな工夫を行うことが必要だと学ぶことができた。

2. 「授業実践」分野として「主免実習」の経験を踏まえ今回の実習で学んだ点、深く印象に残っている点はどのようなことですか

- 授業のねらいを定めることの大切さ。
- 課題が子どもたちの実態を踏まえたものになっているか、それに合った学習内容になっているかを考えること。
- 教壇実習はなかったが、一人一人の学習理解、理解を深める必要がある場面での対応など学んだ。
- 教壇実習はなかったが、授業観察で、答えを教えるのではなく方法について提案することの大切さを学んだ。
- 課題に取り組むための準備、他の考えにいかに関わりかかるといふ点。
- 子どもの実生活、日常の出来事を題材に授業に生かすこと。発問や問い返しの大切さ。
- 本時の目標をどこに重点を置くか軸をしっかりとさせること。授業内でどう評価していくかまで考えること。
- 見通しを持たせること、教材の工夫によって理解度、集中度が高まることを実感した。
- 間接指導時の子どもたちの指示を明確にすること、指示だけでなく活動内容を考える時間を設けること。「わたり」と「ずらし」のタイミング。
- 発問をわかりやすくすること、「ずらし」をどのようにするか悩んだ。教材面は主免実習を生かし手作りのもので興味を引き付けることができた。
- 授業の組み立てについて、一つの教材でも文字の大きさ、色使い、言葉選びなどの配慮についてよくわかった。また、練習問題の用意によって定着を図るが、適切かどうかのチェックが必要であること。
- 直接指導と間接指導の方法、子どもの理解度の見取り、「わかる」つなげる説明、「わたり」のタイミング、主免実習でできなかった教科について授業ができた。

3. 「児童生徒理解」の学びとして、印象に残っている点はどのようなことですか

- 「へき地小規模校」とひとくくりにはできない特徴(上下関係、人間関係の固定化)があった。
- 少人数だからこそ全員での活動が多いこと。全校給食、縦割りの清掃活動など、ほぼ毎日異学年交流が行われている。
- 全校活動が多いことから、自分のクラスだけでなく他のクラスの児童理解も重視されている。
- 児童のこれまでの学習経験や生活経験を知ること必要。
- 教職員全員が全校児童の様子を常に気にかけている雰囲気、朝の打ち合わせで最近の児童の頑張りや様子の共有がなされていた。
- 上級生が下級生のお手本となっていた、先生方が職員室で児童の様子を交流していた。
- 全職員が全校児童のことを知っている。朝の打ち合わせで児童の話をする時間が設定されている。児童の情報共有の環境が整えられている。
- 教師が子どもをよく理解していることから子どもも心を開いて良い信頼関係ができている。

4 「学校の組織運営」（先生方の業務の推進）で印象に残っている点はどのようなことですか

- 先生の人数が少ないため教員一人に対する負担が大きいのと感じた。しかし、だからこそ教員同士が協力し合う場面が多々あった。先生方が和気あいあいとしていた。子どもたちの様子が先生方で共有されていた。
- 先生方全員で役割を分担していた。少人数なので、一人一人の先生の責任が重いのと思った。
- 朝の打ち合わせで、児童の登校状況、健康状態について共有し、健康チェックを行っている。定期的に養護教諭と児童の健康相談が行われ、校務補さんが児童の登校の様子を見守っている。
- 行事を行うにあたって職員会議で話し合い問題点を解決し、より良いものにしようという姿勢が感じられた。先生方の仲の良さ、意見しやすい環境が教育活動に生きてくると感じた。
- 児童の様子について前年度の担任の先生情報を共有していた。

5. 「地域との連携」についての学びとして、印象に残っている点はどのようなことですか

- 地域の伝統の取り組みを教えていただいた。学習発表会の演目準備も保護者が行っていた。
- 地域にある施設、学校などと協力して活動しているのがわかった。
- 生活科や総合的な学習の時間、行事などで地域の施設を利用している。
- 地域の方の協力に感謝の姿勢を持つこと、来校時には挨拶を忘れずより良い関係を築けることを柱にしている。
- 運動会は中学校グラウンドで、保・小・中の先生方が共同で取り組まれていた。
- 児童館や学童のような活動が地域の方々の運営でなされていて、いろいろな活動が取り組まれていた。
- 地域と学校が協力して御神輿を作り、祭りを催すという取り組みがあった。
- 学習発表会の演目に地域の方が携わっていた。毎年協力していただいているようで地域の方が子どもたちの名前を覚えていることに驚いた。

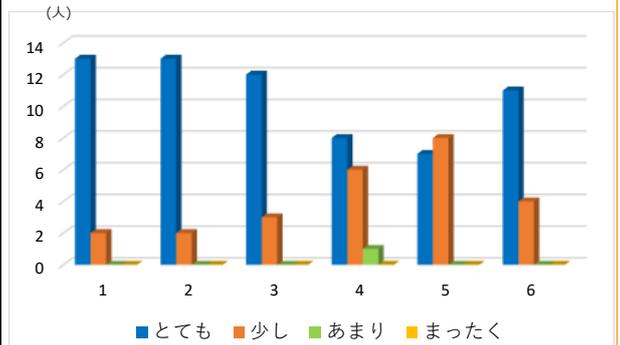
6. 「へき地学校体験実習」についての総合的な感想

- 先生の仕事について学んだ。へき地校の良さとして、異学年交流、個別指導のしやすさ、地域に根付いた活動などがある。反面、少人数による人間関係の固定化話し合い活動の難しさなどがあった。
- 難しさを感じた反面、自らの工夫を取り入れていく余地が多々あり、授業づくりに喜びを見い出せるようになった。このことが教職に就きたいと再度考え直すきっかけとなった。
- 参加することができて本当に良かった。複式授業の方法、へき地小規模校ならではの教育活動を学び、学校規模に関わらず共通して大切にすべき点を学んだ。教師同士の関係、学校と家庭地域の関係が子どもたちを育む上で大きな影響を及ぼすことを改めて実感した。
- 複式授業を経験したいという思いで参加した。初めての複式授業に戸惑ったが貴重な学びとなった。小規模の方がきめ細やかな指導ができるという思い込みは180° 転換した。教師の力次第で授業が左右されてしまうことを学んだ。教材準備など事前の準備も多く教師の仕事の大変さを改めて感じた。つらいこともあったがとてもやりがいを感じ、教師になりたいという思いが固まった。
- 「人のあたたかさ」を感じた。地域の方には多くの声をかけていただいた。感謝でいっぱいである。
- 複式の難しさやジレンマ、逆に良さや単式に活かせることを学んだ。この学びを今後の授業開発に活かしたい。
- 教師の影響力の強さについて実感した。教師は子どもに見られていることを忘れず、常に緊張感を持って取り組むことも必要だと学んだ。地位の様々な方の協力を得ていること、教師の地域理解が必要であることなどを実践的に学ぶことができた。現場の先生方の姿勢や熱い気持ちを持って教育を行っていることを知り、教師を志願する気持ちがより強くなった。
- 複式授業の難しさを改めて学んだ。「わり」 「ずらし」と言った技法が特に難しかった。間接指導中の工夫や、様子を見ながら他学年の授業を行うことが大切であると学ぶことができた。
- 教育の方法を子どもたちの気持ちに合わせて自由に変えてみる等、その柔軟性が特に魅力であると感じた。自然への愛を持ち、優しい心を育てていくことができる環境がとても良かった。
- 少人数だから「きめ細やかな指導ができる」というが、複式であれば、片方の学年を見られないこともある。両学年をどうやって見取るかが今後の課題になった。

「大きな学び」になった点について

■とても ■少し ■あまり ■まったく (単位:人)

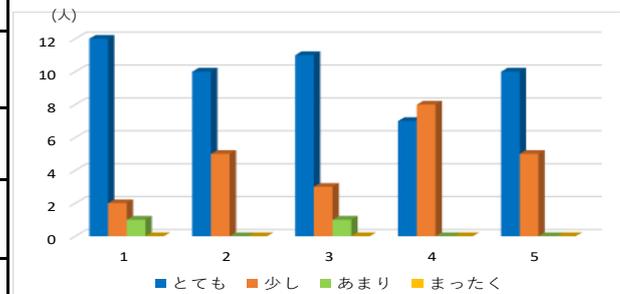
	とても	少し	あまり	まったく	計
1 子どもたちとの交流が 多くできた	13	2	0	0	15
2 子ども理解について 深く学べた	13	2	0	0	15
3 授業づくりについて 多く学べた	12	3	0	0	15
4 学級経営の在り方を 詳しく学べた	8	6	1	0	15
5 教師の仕事 細かく知ることができた	7	8	0	0	15
6 教師間の協力を 具体的に知ることができた	11	4	0	0	15



「授業実践」について

■とても ■少し ■あまり ■まったく (単位:人)

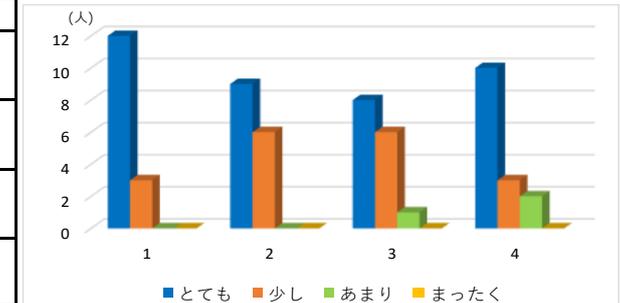
	とても	少し	あまり	まったく	計
1 複式授業の 計画について学べた	12	2	1	0	15
2 教材研究の方法や 内容について学べた	10	5	0	0	15
3 複式授業の 方法について学べた	11	3	1	0	15
4 学習規律など 学習の形態について学べた	7	8	0	0	15
5 個別指導の 重要さについて学べた	10	5	0	0	15



「児童生徒理解について」

■とても ■少し ■あまり ■まったく (単位:人)

	とても	少し	あまり	まったく	計
1 子どもたちとのより 深い交流ができた	12	3	0	0	15
2 「児童生徒理解」の 方法について学べた	9	6	0	0	15
3 学級経営の方法について学べた	8	6	1	0	15
4 「縦割り班」など 学校としての取組みを学べた	10	3	2	0	15



「学校の組織」「地域との連携」について

■とても ■少し ■あまり ■まったく (単位:人)

	とても	少し	あまり	まったく	計
1 学校業務への教員の関わりと その推進に多くを学んだ	3	10	2	0	15
2 教員相互の協力・協働の 体制の在り方に多くを学んだ	10	5	0	0	15
3 子どもを通して地域の 状況を知ることができた	4	9	2	0	15
4 行事など地域との連携の 在り方を具体的に学べた	5	8	2	0	15

